

第2学年英語科学習指導案

日時 平成27年11月11日(水) 授業②
場所 八幡平市立西根中学校 2年3組教室
学級 2年3組(男子17名 女子18名 計35名)
授業者 小田島 篤史

1 単元名

PROGRAM 7 If You Wish to See a Change (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 生徒観

本学級は英語の学習への関心が高く、授業の中で英語を覚え、使えるようになることに喜びを感じている生徒が多い。また、35人という奇数人数であるため、ペア活動を行う際には教師が相手を務め、生徒の学習状況を確認しながらコミュニケーションを図っている。そのため、教室でのインターアクションにおける生徒たちの反応が良い。

本学年は、1年時から授業の後段に書く活動を位置付け、音声で取り入れた英語を文字化する学習を行ってきた。1月に行われた英語チャレンジテストでは、「書くこと」の領域が県比110.2と、良好な結果が表れ、その後も継続した指導を行ってきた。学級編制替えを経て、今年度の5月に実施した教研式標準学力検査NRTでは、本学級の生徒たちは以下のような学習状況であることが分かった。

観点	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
正答率(学級)	80.4	62.8	51.7	54.9
全国比	105	98	98	105

傾向として、話すこと、読むことの指導が不十分であることが分かる。この課題を克服する手立てとして、音読など文字を介した活動から、話す活動へつなぐ言語活動を行っていく必要があると感じた。そこで、音読の後に教科書本文を利用した自己表現活動を取り入れ、話すことの技能向上を図ってきた。この指導の継続によって、4技能が調和されたバランスのとれた英語力の獲得が期待される。

(2) 教材観

PROGRAM 7は、世界の首脳が集まる「地球環境サミット」の場で、わずか12歳の若さでスピーチを行ったセヴァン・カリス＝スズキさんの主張を読み取り、彼女の生き方や現代を生きる私たちが行うべきことを考えさせる単元となっている。英文読解の観点を与えながら内容を読み取り、得られた情報から自分が大切と思われる内容を抜き出させ、その内容に感想を加える活動を行い、自己表現の活動へと発展させていきたい。

言語材料では、目的語として用いられる動名詞(-ing)、人や物などの様子を描写するlook、第4文型を形成するgive+目的語①+目的語②が初出となっている。いずれもBasic Dialogでの導入によって言語使用場面と用法に留意させ、文法説明に終始しないよう心がけたい。本文の読み取り段階では、これらの文型が文章表現の一部として登場するので、自己表現に進んで活用させるよう心がけさせたい。

(3) 指導観

学習指導要領解説外国語編、ウー読むことの(オ)には、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」とある。これを受け本単元では、英語の運用能力そのものの向上だけではなく、母語で考え、意見する力の育成も視野に入れて指導したい。その際、教科書本文の情報だけではなく、他教科やメディアから得た、生徒たち自身が持っている知識を統合させ、説得力のある意見を構築させるよう学習を展開することに留意したい。グループワークを通して、生徒同士が学び合い、発表し合うことを指導過程に位置付け、生徒たちの言語技術の向上に努めたい。

3 単元の目標

- (1) 新出の言語材料を用いて、ペア、グループでの言語活動に積極的に取り組んでいる。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 自分の考えや気持ちを、英語で話したり書いたりすることができる。
【外国語表現の能力】
- (3) 教科書本文や友だちの発表から、書き手や話し手の意向を正しくつかむことができる。
【外国語理解の能力】
- (4) 動名詞-ing、look+形容詞、give+人+物の意味と用法を理解できる。
【言語や文化についての知識・理解】

4 単元指導計画と評価 (全6時間) ※「言」は本時の言語活動

セクション	時間	学習課題	評価規準			
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	1	自分の好きなことや楽しみにしていることを表現できるようになろう。	動名詞を用いて、「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (観察)	/	/	like(enjoy)+～ingの文型を理解している。 (記述)
	言	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことや楽しみにしていることを、動名詞を用いて表現する。【ペア】 ・互いの好きなことや楽しみにしていることを発表し合い、コメントを言い合う。【小集団】 				
	2	セヴァン・スズキさんの主張に対する、自分の意見を発表しよう。 ①	/	自分のレポートのタイトルを英語で書き、意見を主張することができる。 (発表)	他の発表を聞いて、要旨を理解できる。 (記述)	/
言	<ul style="list-style-type: none"> ・本文から得た情報に、自分の考えを加えて意見を構築する。【個人】 ・筆者の主張に対する自分の意見を発表し合う。【小集団】 					
2	3	人やものの様子を表現できるようになろう。	look+形容詞の表現を用いて、「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (観察)	/	/	look+形容詞の表現方法を理解している。 (記述)
	言	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードの人物を見て、どんな様子なのかを、look+形容詞を用いて表現する。【ペア】 ・相手の描いた絵を見て、どんな様子なのかを伝え、相手からの反応をもらう。【ペア】 				
2	4	セヴァン・スズキさんの主張に対する、自分の意見を発表しよう。 ②	/	本文から得た情報に、自分の考えを加えて話すことができる。 (発表)	他の発表を聞いて、要旨を理解できる。 (記述)	/
	言	<ul style="list-style-type: none"> ・本文から得た情報に、自分の考えを加えて意見を構築する。【個人】 ・筆者の主張に対する自分の意見を発表し合う。【小集団】 				

3	5	相手に物をあげることを伝えられるようになるう。	give+人+物の文型を用いて、「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (観察)			give+人+物の表現方法を理解している。 (記述)
	言	・絵カードの人物と物を組み合わせて、give+人+物を用いて表現する。【ペア】 ・友だちの誕生日に何をあげようとしているのかを口頭表現する。【小集団】				
	6	セヴァン・スズキさんの主張に対する、自分の意見を発表しよう。 ③		本文から得た情報に、自分の考えを加えて話すことができる。(発表)	他の発表を聞いて、要旨を理解できる。 (記述)	
	言	・本文から得た情報に、自分の考えを加えて意見を構築する。【個人】 ・セヴァンさんの主張に対する自分の意見を発表し合う。【小集団】				
全	7	セヴァン・スズキさんの主張に対する、自分たちの考えをまとめよう。		筆者の主張に対する意見を自分自身の知識を加えて考えることができる。(発表)		
	言	・セヴァンさんの主張の根拠となる事象をまとめ、意見を加えてレポートを作成する。【小集団】				
全	8	セヴァン・スズキさんの主張に対する、自分たちの考えを発表し合おう。		自分たちの作成したレポートを、内容を伝えるように発表できる。 (発表)	他のグループが発表したレポートの英文の要旨を理解できる。 (記述)	
	言	・自分たちのグループで作成したレポートの発表リハーサルを行う。【小集団】 ・互いの発表を聞き合い、内容を理解し、自分なりの考えをまとめる。【全体】				

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

①自分で作成したレポートの内容を、聞き手に伝えられるよう工夫して発表することができる。

【外国語表現の能力】

③他が発表したレポートの要旨を理解できる。【外国語理解の能力】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	言語活動の工夫
① 【外国語表現の能力】	自分のレポートのタイトルを英語で書き、意見を主張することができる。(観察)	説得力のある発表ができるよう、作成したレポートから、強調したい一文を選んでタイトルとして書く。
② 【外国語理解の能力】	他の発表を聞いて、要旨を理解できる。(記述)	他の発表から、印象に残った英文やフレーズを書き留めて、感想を加えて発表にそなえる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導と評価	指導上の留意点
導入 7分	<p>1 Introduction (Teacher's Talk) 【資料提示】</p> <p>2 Setting Goal 【課題設定】</p>	<ul style="list-style-type: none"> セヴァン・スズキさんのスピーチを視聴する。 Teacher's Talk から、教科書本文で学んだセヴァン・スズキさんの主張と、関連する世界の事象について復習する。 前時から取り組んできたレポートの活用方法を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちのプレゼンテーションのモデルとなることを意識して話す。 グループ内での発表方法を提示する。
セヴァン・スズキさんの主張に対する自分の考えを、互いに発表し合おう。			
展開 33分	<p>3 Individual Activity 【情報分析】</p> <p>4 Group Activity 【表現】</p> <p>5 Reflection 【振り返り】 【思考・判断】</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で自分の作成したレポートの発表を行う。 【表】 自分のレポートのタイトルを英語で書き、意見を主張することができる。(発表) グループ単位で、全体での発表を行う。 【理】 他の発表を聞いて、要旨を理解できる。(記述) 本時の学習を振り返り、自分自身が考えたことと他の発表を比較して、レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見、その根拠、結論を明示して発表するよう促す。 他の発表のよいところをメモする。 話し手、聞き手それぞれに示したポイントを意識させて活動を進める。 なるべく話し手を見て発表を聞くよう促すが、必要に応じてメモをとってよいことを指示する。 印象に残った発表内容を取り上げ、まとめをさせる。 共感した発表内容は、努めて英語で記述するよう促す。
終末 10分	<p>6 Share Ideas 【振り返り】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作成したレポートをグループ内で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら、全体発表する生徒を指名する。

(4) 板書計画

GOAL セヴァン・スズキさんの主張に対する自分の考えを、互いに発表し合おう。

Target

If you can't fix the environment, please stop breaking it!

写真1

Air

写真2

Water

写真3

Nature

Impressed words

Reflection

共感した発表内容と意見・感想

反省、今後への課題